

学校教育目標

○学校理念
「いのち輝かせ、夢と幸せをばぐむ学校づくり」
○学校教育目標
「未来を切り拓く、こころ豊かで自立した児童の育成」
～コミュニティ・スクールとして～

総合的な学校評価

・新型コロナウイルス感染症拡大により、今年度も制約や制限が多かったが、コミュニティ・スクール(地域とともにある学校)として、学校・家庭・地域・関係機関が連携協力し、変化に対応、創意工夫し、できる限りの取組を行って、学校教育目標の具現化を達成しているといえる。
・生徒指導の充実、情報の把握と情報提供・発信、GIGAスクール構想による一人一台のタブレットをはじめとするICT機器・ネットワークの活用、UD及び主体的・対話的で深い学びの授業づくりなどの成果を、次年度にしっかりと引継ぎ、さらに次年度も重点化・焦点化して取り組むべきである。
・子どもの安心・安全、健やかな成長、ふるさと教育、等のために、子どもの見守り・まなび隊等をはじめ多くの竹田の「ひと・こと・もの」が学校を支え応援・支援してくれている。今後も熟識・協働し、竹田の学校・地域の文化・伝統として継続・発展させていくことが大切であろう。

自己評価・達成状況：A：よくできて(達成している) B：概ねできて(達成している) C：あまりできて(達成していない) D：できて(達成していない)

	評価の観点	達成状況				学校の取組状況・今後改善すべきこと	学校関係者評価 (学校運営協議会の意見・提案等)	
		A	B	C	D			
学校運営	地域とともにある学校づくり	家庭や地域の人々への情報発信	83%	17%	0%	0%	○学校Webページ、ブログ、学校便り・学級通信・保健だより等により情報発信がしっかり行われている。○通信やホームページ等で情報が発信できている。○家庭や地域の方々へ必要な情報が学校だよりやホームページ等で発信されている。○QRコードを活用した動く情報は、学校の様子をありのまま伝えられる手段である。○学校のブログやおたより等で、学校の様子を丁寧に伝えられていると感じる。○学級通信・校報・ホームページ等で定期的な情報発信ができていて、○通信等で情報発信できている。	○「保護者アンケート」より、学校は家庭に対し情報提供ができていて、保護者もよく理解していると感じる。 ○(運動会について) 昨年度に続き感染症対策のために無観客での開催となったことは非常に残念だった。時期を後ろ倒し(10月へ)したにもかかわらずコロナには勝てなかったが、良い点もあった。①昨年度同様に多くの地域の方々がフェンス越しで観覧してくださったこと②10月の日曜としたことで、各プログラムの仕上がり(質)がよくなった。…その要因には運動会に適した季節、練習や準備の時間などが考えられるが次年度以降にも大いに参考になると思う。 ○土日に空いている体育館やグラウンドを地域のスポーツクラブ活動に使わせてもらえるのはありがたいです。 ○毎月の学校だよりで小学校の様子がわかりやすいと思う。職員に回覧して読ませていただいている ○コロナ禍で交流の機会が延期になったが、できる形で実現できたらと思う。可能な方法を園も一緒に考えたい。 ○コロナを正しく恐れながら、来年度は何か実現できる取り組みを考えていきたい。 ○通信や学級ブログの活用などで分かりやすく学校の様子が伝えられており良かったです。
		地域の「ひと・こと・もの」を活かした教育活動の推進	58%	42%	0%	0%	○コロナ禍であっても、可能な限り地域とともにある学校づくりを推進できている。○地域の方や保護者が協力的で地域教材を生かした教育活動が推進しやすい。○コロナ禍でできることに取り組めた。○地域との関係がコロナの影響で希薄になっているのが課題。	
	生徒指導	豊かな集団生活が営まれる学級づくり	45%	55%	0%	0%	○学級会活動を中心にしながら、児童会活動・縦割り班活動も含め学校全体で豊かな集団づくりを推進できている。○温かく優しい児童が多く、豊かな集団生活が営まれるつつある。	○縦割り班活動により、高学年と低学年の交流があり、年上・年下の人間関係もうまく築けている。 ○ネットについての知識がまだ不足している。特に高学年になるとSNSの利用も増えているようですが、悪い所・怖い所がよく分かっていないように思う。トラブルを防ぐためにも知識が必要。
		児童の内面理解を園る指導の工夫	58%	42%	0%	0%	○日々の連絡帳での家庭とのやりとり、児童観察や教育相談等を通して子どもに寄り添い、内面を理解し、毎週月曜日の生活指導委員会や職期、子どもを語る会、職員会議等で情報共有および指導支援の手立て等の共有化が図られている。○生活アンケートがしっかり活用されている。○情報共有の場がきちんと設けられている	
		いじめ、不登校、問題行動、ネットトラブル等への適切な対応	50%	50%	0%	0%	○未然防止の取組はもちろんだこと、「報告・連絡・相談」の徹底、迅速な初期対応、情報と指導支援の手立ての共有・実践により成果を上げている。○課題のある児童もあり、内面理解と未然防止に努めていきたい。○学曜日の職員会議で、情報が共有できていると思う。○いじめアンケートや週1の生活指導委員会で、早期発見早期対応ができたと思う。○何か起きた時には、すぐに対応する協力体制ができていると思う。○委員会が機能的に動いている。○ネットへの対応が課題。どんどんと複雑化している。問題は見えにくい。	
	危機管理体制の整備	マニュアルの点検・見直し	36%	64%	0%	0%	○毎月の安全点検をはじめ、施設設備の安全管理が適切に行われている。○子どもの安全安心のため、より良いマニュアルへの見直しをさらに進めたい。○気象災害・土砂災害についての部分で細かな見直しできた	○今季のような降雪時、児童の登下校は大変である。通学路の積極的な除雪や通行者の安全面への協力依頼など地域全体の問題として対応が必要である。 ○まず川が近いということで気象・土砂の想定が優先かと思うが、地震への備えもお願いしたい。
		地域課題に応じた防災、防犯教育の実施	42%	58%	0%	0%	○県指定の防災事業を通して、防災アドバイザー派遣による防災教育(授業)の充実が推進された。4年の研究授業「わが家の備え」や防災マップづくり等の取組により、防災への意識がとて高まった。○授業研究で新たな取り組みの視点が得られた。○地域の課題に応じた内容の再検討が必要。	
	特別支援教育	インクルーシブ教育の推進、校内の指導体制、個に応じた指導	30%	70%	0%	0%	○特別支援コーディネーター4名を中心に、適切な教育活動が推進されている。	
	安全安心に通うことができる学校づくり	新型コロナウイルス感染症対策	17%	75%	8%	0%	○毎日の検温やマスク着用、手洗い励行など基本的な感染症対策・生活習慣・危機管理意識を持った対応ができていて、○机上のシールドは、ずっと同じようにしていくのかどうか。また、せっかくシールドをしていても、2年以上使用することは劣化が激しく難しいのではないかと。 ○コロナ禍により、子どもたちと接する機会がなく残念であった。 ○社会の状況が変化する中ですが、健やかに子どもたちが育つことを願います。 ○子どもルールや常識が変化していく。教職員間・PTA・児童への周知が大変かと思えます。 ○マスクの着用について、運動時・夏場など危険がないように指導してほしいです。体育の時にしんどかったなど話を聞いたことがあったので、つける・つけないでいいをはっきり言わないと「つけたままでいいや…」となる子もいるようです。 ○地域の方正のふれあいで、いろんな体験や知らなかったことを学べる機会を作ってもらえてよかったです。	
	あさごドリムアップ事業	特色ある学校づくり	73%	18%	9%	0%	○感染症対策を取りながら、実施でき良かった。○地域の方の協力もあり、普段学べない学校の木々について学習できよ機会だった。○竹田の子どもを守る会のみさんに来ていただき、普通びを教えていただくことができ、大変よかった。○子どもを守る会の協力もあり、地域の方とふれあい貴重な体験ができた。○外部講師の活用ができた。	
働き方改革・メンタルヘルス	生きがいとゆとり、心身の健康推進(健康診断・メンター等)	27%	55%	9%	9%	○時程による放課後活用、健康診断やメンター指名をはじめ、適切な取組が推進できている。○業務改善や定時退勤日が守られ、働き方改革に向けて職員の意識も高い。○定時退勤達成を目指して全職員で取り組みたいが・・・。○竹田小学校は、時程や会議の長さ等において働きやすい職場であるので、ぜひそれを続けてほしいと思う。○頑張ります。	○C、Dが見受けられます。先生方のストレスや負担が気になりました。 ○今後は時流としてハラスメント対策は必須だと感じる。	
教育課程	自ら学び自ら考える力の育成	「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業のUD化の推進	58%	42%	0%	0%	○めあての工夫、学び合いの工夫(ICT等のツールも活用)、振り返りの工夫 ○めあて、学び合い、ふりかえりの視点がほぼ全学年できつつあると感じる。	
	基礎・基本の定着と個に応じた学習指導の充実	指導内容・指導方法の工夫改善(情報活用能力育成を含めた授業改善) 評価方法の創意工夫	45%	55%	0%	0%	○新しい学力観における基礎・基本とは何か、さらなる研修が必要である。○児童主体の授業スタイルへと変化がみられる。	
	道徳教育	授業研究の充実と指導の工夫	22%	78%	0%	0%	○道徳の時間を要とし、教育活動全体を通して、道徳性の涵養が推進されている。○挨拶や掃除をきちんとできる子が育ってきているように思われる。	
	総合的な学習の時間	全体計画に基づく工夫改善	20%	80%	0%	0%	○未来を生きる子ども達には、キャリア教育の視点を持った取組をさらに進める必要がある。	
課題教育	人権教育	人権尊重の精神の育成	33%	58%	8%	0%	○人権週間や月間の取組をはじめ、一年間を通してすべての教育活動を通して、人権意識と人権感覚の醸成が推進されている。○人権尊重の精神の育成のための具体的な取組がなされているように思うが、情報発信や共通理解が少ないので、その点が改善されたいと思う。	
	体験活動の充実	自然学校を含めた体験活動の充実	70%	30%	0%	0%	○自然学校では、泊なしではあったが、趣旨をしっかりと捉えてつきたい力をはっきりさせ計画し活動できた。○子どもを守る会の協力を得て実施する「円山川の生き物学習」の環境学習並びにふるさと教育としての意義を考えると、次年度以降実施してみたいと思う。○地域の農場やお店にお世話になり体験的な学習をすることができた。○コロナ禍での自然学校としては、できる限りのことができていたと思う。○コロナ禍でできることに取り組めた	○竹田小学校の前向きな授業内容に感心します。専門職の人の話(宮田樹木医)を取り入れたり、金管バンドクラブの活動など。
	食育の推進	栄養教諭と連携した食育の推進	91%	9%	0%	0%	○ほぼ毎週金曜日の給食指導、食育授業や家庭科での調理実習等、とても充実していた。○亀井先生が良いお話をしてくださるのがあります。○栄養教諭とともに「苦手な食べ物の克服に向けた授業」に取り組むことができ、子どもたちの意識が変わりつつある。○栄養教諭による推進で食への関心を高めることができた。	○食育にも係る火(直火)を使う教育の必要性はどうか?家庭でも地域でも火を使う機会が大きく減っている。火をおこすこと、火を消すことはもちろんのこと、火の怖さや温かさを十分に教える機会は家庭や地域ではほとんどなくなってしまった。キャンプファイヤーや飯盒炊きは中学校? ○仲間と泊まる楽しさや大切さを味わえなかったのは残念だが、コロナ禍の中、やれることを最大限されたと思う。 ○食への関心が高まってよいと思います。親子で考えたりする機会が作れたらよいと思いました。
	キャリア教育	進路選択能力の育成・社会的自立に必要な態度や能力の育成	36%	64%	0%	0%	○各学年、発達段階に応じたキャリア教育を推進している。○児童が自分ができることを考えて行動しようとしている。	
その他	GIGAスクール構想(ICT活用)					○GIGAスクール構想によって一人1台のタブレットとなったことで、さらに有効活用できている。ツールの一つとして文房具のように効果的に活用する(させる)ことが大切であろう。○毎日確実に活用している。	○良かったところ、改善を要するところが示されていることはきちんとと自覚もありいいことであると思います。保護者アンケートの番号選択における 3あまり当てはまらない 4当てはまらない を選んだ理由が記述があると学校改善につながるのではと思うのですが…。 ○無観客の運動会、フェンスの外から見たが例年通り元気な様子で安心した。保護者だけでも観覧できるようになればと感じた。 ○全体的にA、B評価が多いので、C、D評価が際立っている。C、Dを改善に導くことでより評価につながっていくと思うのでそこを重点的に取り組んでいきたい。 ○今般のオミクロン株まん延に備えた自宅学習にタブレット端末を活用できるスピード感はずばらしい。一昨年のコロナ休校から得た経験からICTが深耕しているものだと思いますが、インターネット環境が格差が生じていないか危惧します。また、読み書きなど反復練習が必要になる学習は保護者の協力が必須です。タブレット(ICT)が万能ではないことに留意しながらより良い学習の手段に仕上がればよいと期待しています。 ○タブレットを使ったオンライン授業はすでに行われているのでしょうか。 ○タブレットや電子黒板など使用することが増えていく中、視力の低下も気になる。使用について、きまりや視力低下についての話もしっかりしてほしいです。	